

(1) もうすぐ 4 月の VVK 会員総会

ある月曜日の昼食前。

ワイワイ、ガヤガヤ、ギャーギャー大騒ぎ (オバチャンたちは「会議」をしているだけ) の VVK の部屋の前をソロソロと、オバチャンたちに見つからないように、お昼休みに出かけようとするプロマネ。

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「あっ、ちょっと、プロマネ、今から時間ある？」

☆プロマネ : 「エーッ！！土日出勤の後で、しかもお腹ぺこぺこで、フラフラなので勘弁してください。では、さようならあ〜。」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「ちょっと、ちょっと待って、すぐだから。」

☆プロマネ : 「う〜んお腹空いてるのにい。で、ナニ？」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「毎年 4 月に VVK の代表メンバーを決めたり、新年度の活動計画をメンバー全員で承認したりする会員総会をやるでしょう？その日にちが 4 月 23 日になったのよ。それでね、今、総会当日の司会進行やら、事前準備の担当やら、役割分担について会議をしててね、23 日の予算も計算したの。で、プロマネにその予算の相談をしたいのだけど。」

☆プロマネ : 「ムムムム・・・」 (眉間にシワ)

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「参加人数は 400 人 (3 月 27 日現在の VVK 加盟メンバーは 536 人) くらいかな、と思うの。それで昼食代が 1 人 70 ルピーとして、まず 28,000 ルピー (75,000 円くらい) でね。それから横断幕を作って、それが 300 ルピーでね、それから、」

☆プロマネ : 「ムムムム・・・アンタたち、またそういう物乞いをするっ！！そうやって総会だ、なんだと何かあるごとに金を出してくれって頼むのは間違ってるって、去年の 4 月にも言ったでしょう！！VVK は一つの組織なのよっ、年間の計画があつて、年間の予算があるって、また忘れちゃったのっ？！4 月 23 日の総会っていうのは、一体、いつの事業なの？」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「2007 年度の事業です。」

☆プロマネ : 「で、4 月 23 日の総会以外に、2007 年 4 月 1 日から 2008 年 3 月 31 日まで

の事業計画と予算はもう話し合ったの？」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「・・・まだです。4月23日の総会の予算だけです。」

☆プロマネ : 「年間の予算が決まったら、ソムニードと交渉。でも VVK の自己資金で、全部の予算をまかなえるなら、別にソムニードと交渉しなくていいからね。でもソムニードとの交渉が必要なら、総会前に事業計画と予算ができたなら、ミーティングをしましょう。それから4月23日で、VVK メンバーの承認を得る段取りだったわよね？そーいう順番だって、去年も言ったでしょうー?!」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「あら～、そうだった、そうだった。思い出したワ一☆。じゃあ、3月21日、22日のVVK 運営委員会で、2007年度の計画と予算を決めるわ。そのときのミーティングに来てくれればいいワ一。」

オバチャンたち、どうやら DNA の中に「4月は総会で、前の年度の事業報告をして、新年度の事業計画を承認してもらおう」は焼き付いたようだが（これだけでもスゴイけど）、まだ総会など、イベントごとにソムニードに「物乞い」してくるその「物乞い根性」は抜けず・・・。

でも、すぐに去年の総会のことを思い出したのは、エライ！さすが VVK 代表、ビジャヤラクシュミ。

ただ、3月21日、22日のわずか2日間の運営委員会で、年間の計画と予算をたてられると思っているなんて、まだまだアマイ。

とりあえず3月21日午後、VVK 代表メンバー9人による VVK 運営委員会に出ることになった、ソムニード・スタッフ。

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「では、ソムニードの皆さん、聞いてください。VVK では、2007年度次の活動を予定しております。まず会員数を今の536人に加えて、1年間で千人に増やします。千人に増やす方法はですね、VVK メンバーが、1人勧誘するごとに10ルピーのボーナスを払うことにします。で、その予算ですが、1,000×10ルピーで10,000ルピーです。その次の活動はですね、」

◎水戸黄門 : 「ちょっと発言してよいかの？」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表) : 「どーぞ、どーぞ。」

◎水戸黄門 : 「今、ここに牛が5頭いるとしよう。」

▲VVK 代表メンバー9人一同 : (ココロの声) 「う～ん？今日は事業計画と予算のことなのに、なぜ牛の話？」

◎水戸黄門 : 「VVK には、今536人の会員がおるのじゃろう。だいたい100人で1頭の牛だと思えばよいのじゃ。」

▲VVK 代表メンバー9人一同 : (ココロの声) 「ど～して、メンバーが牛なの??」

◎水戸黄門 : 「ダナラクシュミ、今、VVK の口座の残高はいくらじゃ？」

◇ダナラクシュミ (VVK スタッフ) : 「えっと、14,000 ルピー (約 38,000 円) です。」

◎水戸黄門 : 「では、銀行業の担当者に聞くが、今何人のメンバーがお金を借りているのじゃ？」

▼オバチャン 1 : 「はあ、63 人です。」

◎水戸黄門 : 「おまえさんたち、536 人の VVK 銀行のお客さんのうち、10 パーセントしか、お金を貸し出しておらんじゃな。しかも、まだ銀行に貸し出せる金がありながら、その金は銀行で眠っているじゃな。」

△オバチャン 2 : 「で、その話と牛と、どーいう関係があるのですか？」

◎水戸黄門 : 「おまえさんたち、今、5 頭の牛を飼っておってだな、その中でミルクをだす牛はわずか 1 頭。しかもその 1 頭が出せるミルクの総量のうちの 10 パーセントしかミルクを出しておらんということじゃな。」

▲VVK 代表メンバー 9 人一同 : 「ははあ、な〜るほど。上手いこと言うわねえ。さすが黄門様。そうねえ、牛が 5 頭いるけど、ミルクは 1 頭しか出してないわねえ。しかも VVK 銀行からローン借りる人は、10 回返済ばかりだから、返済も遅いのよねえ。次の人が、借りることができるまで 10 ヶ月も待たなくては行かない状態よねえ。」

◎水戸黄門 : 「そうじゃな。おまえさんたち、いま 5 頭のミルクの出ない牛を持っておるじゃろう？その上、来年はさらに 10 頭の牛を飼おう、というわけじゃな？じゃが、ミルクのでない牛が 10 頭だろうと、100 頭だろうと、何頭に増えたって、ミルクはゼロだわな。おまえさんたちの来年度は 1,000 人の VVK メンバーを増やす、というのは、今の 5 頭の牛がミルクがでるようになってからの話ではないのか？」

★オバチャン 5 : 「そうよっ、黄門様の言う通りよっ！アタシたち、今の 536 人で、まづがんばらないとっ！」

◎水戸黄門 : 「ではもう一つ聞くが、VVK メンバーのうち、VVK 銀行からお金を借りる手続きを理解しているメンバーは何人くらいいるのじゃ？」

▽オバチャン 2 : 「アタシ、ちゃんとみんなに伝えたわ。でも興味のない人や、まだ VVK の会員になって 6 月経っていない人は、あまり VVK 銀行のこと知らないのよ。」(※オバチャンたちが決めた VVK 銀行のルールでは、VVK の会員になってから 6 ヶ月後にしかお金を借りることができない。)

◎水戸黄門 : 「ところで、おまえさんたち、先月、ローンの返済期日から 5 日間以内なら、罰金を払わなくていいというルールを決めたじゃろう。その新しいルールをしっているメンバーは何人いるのじゃ？」

▲オバチャン 3 : 「アタシのグループのメンバーには伝えたけど、他のグループには言っていないわ。」

○オバチャン 4 : 「アタシ、誰にもその新しいルールを伝えてないわー。」

◎水戸黄門 : 「ということはじゃな、そのルールを知っておるのは、おまえさんたち 9 人と、おまえさんたちのグループメンバーだけ、ということじゃな？」

▲オバチャン3：「でも、アタシら28日の定例ミーティングでみんなに知らせるわ！」

■ラマラジュ：「新しいルールを決めたのが3月5日だったろう？それから28日まで、誰にも言わない気なのか？」

●オバチャン6：「そーいうことになるわねえ。」

◎水戸黄門：「ということはじゃな、新しいルールの恩恵を受けるのは、28日のミーティングまで、ほぼ1ヶ月間も、おまえさんたちと、おまえさんたちのグループのメンバーだけ、ということじゃ。おまえさんたちのやっておることは、おまえさんたちがよく非難する政府の役人やNGOのスタッフと同じことじゃ。情報を共有せず、数人だけが情報をもって、自分たちのいいように組織を運営する。VVKは、そんなどこにでもある、いい加減な団体の一つなのか？そんなVVKなど、ソムニードは一切、支援せんぞっ。JICAにだって、VVKとはもうプロジェクトはできんと言っても構わんのだぞっ。」

あら～、久しぶりの黄門様の一喝で、怒られちゃったオバチャンたち。

▲VVK代表メンバー9人一同：「そんな～。アタシら、ちゃんと情報共有するわ。地域ごとに運営委員が担当を決めて、責任を持って、VVKで決まったことは全メンバー536人と共有できるようにするわ。だから支援をやめるなんて言わないでよー！！」

◎水戸黄門：「ワシはな、おまえさんたちの“必ず実行するわ”という言葉は信じないぞ。そーいうのなら、行動でみせてごらんなさい。いつ、だれが、誰に、情報を共有するのかを、具体的に行動しない限り、ワシはなんの予算交渉のせんからな。では、さようなら。」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK代表)：「ちょっと、待って黄門様。明日もう一度、代表メンバーで、話し合うから。どうやって情報を共有するか、そしてもう一度、どーいう事業計画を立てるか、話し合うから、もう一度、明日、ミーティングに来て下さいっ！！」

◎水戸黄門：「何度でもミーティングには来てやるが、おまえさんたち代表メンバーが“真剣だ”ということを実行で示さない限りは、ソムニードはVVKと次年度の予算交渉はしないからな。」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK代表)：「わ、わかっています。アタシたち、まず5頭全部の牛がどうしたらミルクを100パーセント出せるか、話し合いますからっ！！」

というわけで、翌日(3月22日)に、また頭をフル回転させて、ミーティングにのぞむ9人の代表メンバーたち。

◆ビジャヤラクシュミ (VVK代表)：「聞いてくださいっ。新年度は、10月からVVK会員が1,000人になるように勧誘を始めます。4月から9月までの6ヶ月間は、536人がミルクを出せるようにがんばります。まず会議があるごとに、代表メンバーが地域ごとにミーティングを開いて、536人と会議の結果を共有します。」

◎水戸黄門：「ところでVVKにとってミルクとはナンじゃ？」

★オバチャン7：「それは、VVKの情報を知ってるメンバーがたくさんいることです。」

○オバチャン8：「ミーティングのことかなあ？」

☆オバチャン9：「ローンのことよっ！」

ここで愕然とするソムニード・スタッフ。

なんと昨日の牛の例え話で、「ミルク＝VVKへの収入」のことだと、オバチャンたち、みんなわかっていると思ったスタッフだったが、ふと「ミルクってなんのことかわかってないかも」と思った黄門様の質問で、オバチャンたちが「VVKにとってのミルクって？」という基本的な点を理解していなかったことが判明。

◎水戸黄門：「おまえさんたち、VVKにとってのミルクとは、利子じゃ。銀行業で手に入る利子のことじゃ。ローンを貸し出す、しかも素早くローンを返済する、少ない資金でもどんどん回転させてゆけば、利子が増えるじゃろう。そういうトレーニングを何度も受けてきたじゃろう？」

◆ビジャヤラクシュミ (VVK 代表)：「そのとおり！VVK銀行に入ってくる利子が、VVKにとってのミルクです。」

オバチャンたち、「銀行業は銀行業」、「会員総会は会員総会」、「資金運用や帳簿付けの研修は研修」、「事業計画は事業計画」とそれぞれは“な～んとなく”頭に入っているのだけど、どれもがつながっていることには気づいていない様子。

◎水戸黄門：「じゃあ、牛がミルクを出すためには、飼料が必要じゃな？じゃあその飼料とはナンじゃ？」

▲オバチャン一同：「？？ウ～ン、ナンだろ？？」

◎水戸黄門：「それが、研修じゃ。それが情報共有じゃ。おまえさんたち、SHGへの資金運用や帳簿付けの研修も真剣にやらん、情報共有もせん、というのはナンも牛に飼料をやっておらんのと同様じゃっ！！」

▲オバチャン3：「でも、アタシ、指導員の研修を受けて、今日までに8つのグループに研修をしたけど、全然メンバーが集まらないグループもあったわ。なんかやる気ない人が多いみたい。」

◎水戸黄門：「おまえさんたち、代表メンバーが研修をなぜするのか、わかっていないのじゃよ。資金運用や帳簿付けの研修をすることと、銀行業がつながっておらんのじゃ。それに、研修と事業計画もつながっておらん。」

▲オバチャン一同：「ウ～ン、納得。まだこのままの事業計画じゃダメだわ！3月24日と26日とまた事業計画を話し合うわー。」

たった 2 日のミーティングでは、新年度の事業計画も予算もできないことがわかったオバチャンたち。

久しぶりに黄門様に叱られちゃって、オバチャンたちの「真剣」がどれだけ行動になって現れるか、4月23日の会員総会まであと27日！

(2) 生産・物流センター建設速報

「設計図が読めないエンジニア」だけじゃなかった

オバチャンたちのスッタモンダの事業計画と同時並行で、建設ラストスパートの生産・物流センターであるが、PCUR-LINK 便り第 27 号で「設計図が読めないエンジニア」を紹介したが、追加でもう一つビックリの事実が・・・。

それは、「見積もりができない建築家」。

建設の現場監督はソムニードのスタッフが直接しているのだが、工事現場でモニターする度に、増えてゆく支出に疑問がいっぱい。

「エンジニアや建築家が、見積もりを水増ししているのではないか??」という疑惑をもったが、事実は、そういう高レベルの話ではなかった。

建築家が体積・面積あたりの費用を見積もる、それをエンジニアが、セメント何袋、煉瓦何個という具合に、具体的な数におとしてゆくのだが、まず建築家が、セメントなどの資材の値上がりなど全く市場価格を無視した見積もりを出してくる。

しかも、電気工事とか、床のタイルとか、必要不可欠なものが見積もりに入っていない。

その見積もりを見ているのか、いないのか、エンジニアも、その場その場の試算しかできない。つまり、壁の工事が終わってみないと、天井の工事が終わってみないと、という具合で、一つの工程が終わった後でしか、セメントが何袋必要かがわからないエンジニア。

そこで、1ヶ月に一度、工事の進捗に合わせて、見積、試算、修正を繰り返す、という苦肉の策で、支出を最小限にとどめようと最善を尽くしているが、エンジニアが設計図を読めないだけでなく、建築家が見積もりができないとは！！とビックリ。たまりかねて、スタッフに、建築家が出した見積もりを見積もりとするのではなく、それを元にエンジニアとスタッフと建築家と 3 者でさらに一緒に見積もりをしてから、最終案として提出しろと指令を飛ばした黄門様。

いよいよコミュニティ開発だけでなく、エンジニアとしての道を歩き始めたソムニードのフィールドスタッフであった。

センター開所式は、いよいよ 6 月。ソムニード・ブログ (<http://somneed.seesaa.net>)でも近日、公開します。

<注意書き>

(※1) VVK とは、ビジャカ・ワニタ・クランティの略。2005年に同案件のファシリテーションによって設立されたビジャカパトナム市内および近郊の35のSHGからなる連合体。SHGとは、セルフ・ヘルプ・グループといい、貯蓄と貸し付けを行う10人～20人で組織されるグループ。

(※2) プロマネ：プロジェクト・マネージャーの略。本名は、原康子

(※3) ラマラジュ：ソムニードのPCUR-LINK担当スタッフ。

(※4) アシスタント・プロマネ：本名、前川香子

(※5) 水戸黄門：本名、和田信明。
